

東日本大震災医療支援 こころのケアチーム 第20班 活動報告



7月19日～22日
岩手県大船渡市

吉村淳（医師）
高林恵寿（看護師）
前園真毅（精神保健福祉士）



第20班の活動概要

- 第19班から21ケースの引き継ぎ。
- その大半が、1回/週、2回/週の頻度で訪問している。
- 20班が訪問予定となっているケースを中心に訪問。
- 新規ケース2件（内1件は陸前高田市のアルコール問題ケース）
- 終結ケースなし。
- 再浮上ケース2件。
- 読売新聞同行取材。



現在の他の支援チーム状況

- 沖縄こころのケアチームが再活動を開始。
 - ： 火～金隔週 9月末まで（8月は16日から）中小企業や地域作業所への啓発活動中心。
- 相模原市
 - ： 5泊6日（事務・消防・福祉等）5名。
 - こころのケアチームは沖縄、愛知ネット、久里浜の3チームが活動。
- 保健師チーム
 - ： 全国の保健師 1～3名程（ex.滋賀県甲賀市、鹿児島県大隅連合、岡山県等）
 - 市の保健師と合同で仮設住宅健康状態調査。
 - 今後、夜間集団訪問を予定。

被災地の状況

- 避難所が次々に閉鎖
： 大船渡中（7/23） 福祉の里（8月末）
- 自衛隊の撤退（陸前高田市含む）
- 瓦礫撤去が進む。



20班の活動 その1

- 訪問¹³ 不在⁴ 電話での近況確認³
- アルコール問題ケースは、5件。
- 高齢者のケースは、8件（ALケース含む）
- 市保健師や保健師チームと毎週交互に訪問。
- 不在ケースは時間や日を変えて訪問し会う。
- できる限り連絡先を教えてもらい、効率的な訪問を心掛ける。
- 回りきれないケースは電話で家族から近況を伺う。
- 電話での近況確認では「仕事がみつかった」「瓦礫撤去に行っていた」など
- また、医療チームのステッカーを貼った車を見て一旦終結したケースが立ち寄り再相談希望することがあった。

20班の活動 その2

- 処方ケースは1→0ケースになる。
- 大船渡病院に通院ケースも先方医師の要請あり、訪問して生活の様子や心理的な支援を実施。
- 仮設住宅不在ケースは、隣や真向かいの住民から生活の様子を情報収集。

Ex. 「大船渡病院から退院した後に娘さんのところに数日行ったようよ」

「親戚の方が来ていたり、今日は出かけていたようですよ」

- こころの相談室（毎木PM）の今後のあり方について協議。



隊帰隊にあ
セレモニー」
る。
日までの
戸籍交付
陸前高田市
山市民環境
から、6月27
死亡届があっ
謄本・抄本
についている。
じ家族の中
が上へな

気仙3市町の被害者・避難者数

	死者数	行方不明者数	避難者数
大船渡市	327	122	294
陸前高田市	1,534	411	337
住田町	0	1	0

(20日現在。死者数は県警、不明者、避難者は3市町の報告による。死者数は被災した場所の市町に計上)





瓦礫撤去の脇では、学校で少年
たちが野球をしていた。
徐々に、日常を取り戻しつつあ
る場面が・・・



一早い、復興を願っています。

